

令和2年度 学校評価

■学校の教育目標: 思いを伝え、相手を理解し、つながり合いながら自分を高めていく子どもの育成

育成を目指す資質・能力: 言語能力の育成		自己評価 A80%以上達成 B79%~60%達成 C59%以下		総合評価	自己評価	成果と課題	成果は○ 課題は△
重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標				
【習得】 空きて働く知識・技能 成	自信をもって発信できる子どもの育成 ○全児童が単元テストで目標値クリア(2か月に1回) ○全児童が「進んで学習に取り組んでいる」「学習内容がわかる」と自己評価(アンケート調査・2か月に1回)	学校	評価規準を明確にした授業改善の推進 ○1日1回以上、思考の流れを重視した(ユニバーサルデザインの視点を大切に)板書計画をもとにした授業を行う。 ○職員室内の研修コーナーに月に1回以上板書画像を掲示し、学期に2回以上意見交流する。	A	100%	<p>○思考の流れを重視した板書計画をもとにした授業を行った。 ○どの教科のどんな学習で効果的なのか考えながら、思考ツールを使った。 ○研修コーナーに板書画像を、月に1回以上掲示することができた。また、定期的に全員で検証することができた。</p> <p>○2学期途中からシートを用いるようにして、自主学習の計画表とノートを確実に家の人に見てもらうことができた。 ○単元テストの結果をもとに個別カルテを見ながら、全員で対策を検討することができた。 △単元テスト・市学力調査ともに目標値に達しなかった児童がいる。組織的に支援を引き続き実施していかなければならない。</p>	
		家庭	基礎・基本を大切にしながら確かな学力づくりの定着 ○単元テストの結果を個人カルテに入力し、学期に2回全員で見取り、対策を検討する。 ○毎日、家庭学習に音読を組み入れる。 ○家庭学習の内容や取り組み方を記入用シートで家庭に知らせる。	A	60%		
		家庭	家庭学習の支援 ○子どもが音読するのを、週に2回以上聴く。 ○頻度を子どもと話し合い、定期的に自主学習を点検し記入用シートにサインする。	B	40%		
		地域	学習支援の充実 ○学校運営協議会の要請に応じ、学習支援活動(読み聞かせ・体験活動等)にボランティアとして支援する。	A	40%		
【涵養】 采知の状況にも対応できる思考力・判断力・表	言葉を通じて伝え合う力の育成 ○全児童が「友だちの発言に対して自分の考えを言うことができた」と自己評価(アンケート調査・2か月に1回) ○全児童が「話し合い活動をして、考えが深まった」と自己評価(アンケート調査・2か月に1回)	学校	活発な話し合いのための効果的な手立ての工夫 ○1日1回以上、多様な意見が出るための工夫をする(思考ツール・考える時間の確保・教師の意図的な話し合い参加等) ○日常の様々な場面において、「はい」の返事・相づち・うなずきをしながら話を聴くようにする。 ○低学年も話し合いカード(低学年用カード)を活用し、1日1回以上、友だちの発言に対しての自分の考えを言う活動を設ける。	A	60%	<p>○授業では、考える時間を確保し、考えの道筋がわかるよう思考ツール等を使って板書に表すよう心がけた。 ○発問を繰り返すことによって、考え直したり、まとめたりできるようにした。 ○返事や相づち、うなづきができるように、ほめたり促したり、必要に応じて声かけをした。 ○朝の会で教員が気持ちの良いあいさつについて話したり、ほめたりすることで朝、率先してあいさつをすることができる児童が増えた。 △話し合いカードの活用が十分ではない学年があった。 △教師と児童との一問一答に陥りやすかった。補助発問や教師の意図的な話し合い参加への研究が不十分であった。</p>	
		家庭	やさやががんばりを認める声かけの推進 ○日常の様子に関心を持ち、積極的にほめるよう心掛ける。 ○月に2回以上、学校だより・ホームページにしっかり目を通す。	A	40%		
		地域	行事・公開日への積極的な参加 ○学期に2回以上、学校を訪問し児童の姿について教職員に伝える(口頭・アンケート)。	A	40%		
		学校	目標に向かって努力する活動の奨励 ○児童が意欲をもって挑戦できる内容を設定できるよう助言し、学期に2回、全校に発表する場を設ける。 ○担当が学期に1回お勤めの本を選定し「読書カード」を作り、毎日の朝読書で利用させる。	A	100%		
【働き方改革】 の推進	もの見方や考え方を広げ深めようとする学びに向かう力・人間性等の育成	学校	あいさつとふれあい活動の推進 ○毎朝、登校時に地域の方へ名前付きのあいさつをする。 ○毎週の読み聞かせ講師・月1回程度来校の外部講師に対し、感謝の思いを言葉や文章で表現させる。 ○チャレンジしていることや取り組み状況を頑張りを家庭に伝える。	A	60%	<p>○チャレンジ活動の取り組みでは、児童のチャレンジ項目について、意欲を持って取り組めるよう助言や時間の確保に努めた。 ○互いの練習の様子を知っているため、互いの努力を認め合うことができる。 ○「読書週間」や「図書集会」の取り組みを行い、励みとなるような図書カードを作り活用することで、児童が様々なジャンルの図書に興味をもって読書できるようになった。</p> <p>○登校時、地域の方へ名前付きあいさつを大きな声でできるようになっている。 △決まった場所で決まった相手への挨拶以外では、できないことがある。例:児童クラブのバスの運転手さんへの挨拶、スクールガードの方に持ってもらった荷物を受け取る時のお礼 等 ○チャレンジの取り組みの様子を家庭に伝えることで、チャレンジのあと押しを家の人が行ってくれていることがわかった。</p>	
		家庭	親子間の会話の促進・充実 ○週に1回以上、親子でじっくり話し合う時間を持つ。 ○チャレンジしていることについて、話題に出すように努める。	A	40%		
		地域	あいさつと温かい声かけの推進 ○登下校時や学校訪問の際、児童にあいさつや温かい声かけをする。	A	40%		
		学校	校務の効率化 ○研修や連絡会の資料を事前に配布し、効率的に会を進行する。 ○「報連相」を徹底し、的確な判断の下に組織的に対処する。 ○ICTやデジタル教材の有効活用により、校務を効率化する。 ○週に2回定時退庁日を設定し、どちらかの日は実行できるように見直しをもって校務にあたる。	A	80%		
家庭	行事や会議の精選・見直し ○OPTAの行事や会議の見直しを行い、回数・時間・準備・役割分担等を改善する。	A	20%				
地域	学習支援 ○学校支援地域コーディネーターが中心となってボランティアを派遣し、学習支援を行う。	A	20%				